りんどう

1　予報（8月）の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予　報　の　根　拠
葉枯病	－	並	（1）７月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった。（±） （2）８月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の予報であり、特に発生を助長する条件ではない。（±）
花腐菌核病	並～やや遅	やや少	（1）８月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の予報。 （2）前年秋期の発生量は平年より少なかった。（－）
ハダニ類	－	並	（1）７月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった。（±） （2）８月の気温は平年並か高い予報であり、増殖に好適な条件である。（＋）
アザミウマ類	－	並	（1）７月下旬の巡回調査では、早生品種で発生が見られ、発生圃場率は平年より低かった。（－） （2）８月の気温は平年並か高い予報であり、増殖に好適な条件である。（＋）

記号の説明　(++)：重要な多発要因、(＋)：多発要因、(±)：並発要因、(－)：少発要因、(－－)：重要な少発要因

2　防除のポイント

【共通事項】

（1）花腐菌核病とアザミウマ類は収穫が終了した圃場が発生源となるので、収穫後の残った花茎は折り取り、圃場外に持ち出す。

（2）収穫が終了した品種でも防除を継続し、病害虫の発生源となるのを防ぐとともに、株養成に努める。

【葉枯病】

（1）降雨後の薬剤散布は効果が劣るので、天気予報を参考にして、降雨前の予防散布を徹底する。

【花腐菌核病】

（1）平年の防除開始時期は、県北部及び山間地域では８月第５～６半旬、県中部以南の平坦地では９月第１～２半旬である。しかし、防除開始時期は気象条件により変動するので、今後発行する情報に注意する。

（2）発病茎は折り取り、花蕾を地面に落とさないよう注意して圃場外に持ち出し、処分する。

【褐斑病】

（1）８月は褐斑病の発生時期である。被害の拡大を防ぎ、翌年の伝染源をなくすため、被害茎葉は取り除いて圃場外へ運び出し、土中に埋めるなどして処分する。

【ハダニ類】

（1）薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統の異なる薬剤をローテーションで使用する。なお、散布時は葉裏に薬液が十分かかるようにする。

（2）雑草はハダニ類の発生源となるので除草し、圃場外へ運び出す。

【リンドウホソハマキ】

（1）被害の見られる圃場ではリンドウホソハマキに効果のある薬剤を選択し、防除を継続する。

（2）圃場をよく観察し、被害茎や被害花蕾を見つけたら折り取り、圃場外で処分する。

【アザミウマ類】

（1）花蕾の着色に伴い成虫が飛来し増殖するので、花蕾が着色しはじめた頃から防除を実施する。